

# God With Us

## Part 6: Israel's Unfaithfulness and God's Ridiculous Love

Kings & Prophets thru 722 B.C.

### Message 2 – The Heart God is Looking For

Asa, Azariah, and Hanai

2 Chronicles 14-16; 1Kings 15:9-24

#### 神は我らと共に

#### パート6：イスラエルの不信仰と神の驚くばかりの愛

紀元前 722 年までの王と預言者たち

#### 第二メッセージ神が求められる心

アサ、アザリア、ハナイ

歴代誌第二 14-16 章、及び列王記第一 15 : 9-24

#### はじめに

南王国 (ユダ) において、レハベアムは息子のアシラのお陰で 3 年間繁栄した。アシラの統治は短かったが、大規模な戦争で、ヤラベアムを打ち負かしたことは重要なイベントであった (歴代誌第二 13 章)。この時イスラエルの人々は打ち負かされ、ユダの人々は勝を得た。彼らとその先祖の神、主を頼んだからである (歴代誌第二 13 : 18)。その後、アサは父親のアビヤを継ぎ、41 年間統治した。アサは南王国で、最も長く統治し、最も影響を及ぼした王の一人であった。歴代誌第二の中で三章に渡りアサの統治について記されている。

アサは統治の間、主に献身する者の模範であり、偶像礼拝の痕跡をも取り除き、人々に神の道を歩むよう導いた。しかし、人生の終わりに近づくにつれ、信仰を全うしなかった男の代表例となった。アサの人生最後の年の物語から有名聖句

が生まれた：主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる (歴代誌第二 16 : 9)。悲しいかな、アサの人生の終り頃の心は完全に神に属する心ではなかった。アサの教訓の内に、自身の心について重要な警告を学ぶことが出来る：隠れた事柄がつまづきとなる。

#### アサの最初の改革：歴代誌第二 14 : 1-8

アサ王は、ユダ王国の霊的改革から取り組み、出だしは順調であった。ヤハウエとの契約に忠実であることが統治と王国の平和と繁栄の鍵であることを心得ていた。父親であるアビヤと祖父レハベアムによって設立された様々な偶像礼拝をひっくり返す必要があった。

アサはその神、主の目に良しと見え、また正しと見えることを行なった。彼は異なる祭壇と、もろもろの高き所を取り除き、石柱をこわし、アシラ像を切り倒し、ユダに命じてその先祖たちの神、主を求めさせ、おきてと戒めとを行わせ、ユダのすべての町々から、高き所と香の祭壇とを取り除いた。そして国は彼のもとに穏やかであった。 (第二歴代誌 14 : 2-5)

アサ王は、民が町の周辺に壁を築くことを許可した。その理由は・・・

主を求めたので、この国はなおわれわれのものであり、われわれが彼を求めたので、四方において、われわれに平安を賜わった。 (第二歴代誌 14 : 7)

アサ王は民に、神を敬うことによって神の保護と祝福をもたらしたと宣言した。

#### エチオピアに対するアサの勝利：歴代誌第二 14：9－15

アサ王の初期の特徴は統治の 10 年目にあった。数百万人のエチオピア軍によって攻撃されたが、自力で戦うことや他国による同盟関係による援助に頼ることなく、主に完全な信頼を置いたので、驚異的な勝利をもたらした。

時にアサはその神、主に向かって呼ばわって言った、「主よ、力のある者を助けることも、力のない者を助けることも、あなたにおいては異なることはありません。われわれの神、主よ、われわれをお助けください。われわれはあなたに寄り頼み、あなたの名によってこの大軍に当ります。主よ、あなたはわれわれの神です。どうぞ人をあなたに勝たせないでください」。そこで主はアサの前とユダの前でエチオピヤびとを撃ち敗られたので、エチオピヤびとは逃げ去った。

(第二歴代誌 14：11, 12)

アサ王の言葉：「主よ、力のある者を助けることも、力のない者を助けることも、あなたにおいては異なることはありません。」アサ王は、50 万人の軍隊を率いていたが、それでも主に謙虚に従っていた。アサの絶対的な依存の宣言であった。我々は弱いがあなたは強い！アサとその軍隊は必死で戦ったが、最終的な希望と信頼と依存は主にあった。

アサと彼に従う民は彼らをゲラルまで追撃したので、エチオピヤびとは倒れて、生き残った者はひとりもなかった。主と主の軍勢の前に撃ち破られたからである。ユダの人々の得たぶんどり物は非常に多かった。(第二歴代誌 14：13)

どれだけ神に依存しているか、また、更に信頼する決意を強化させるために神は頻繁にお試しになる。あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなた

を試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。(申命記 8：2)。最近、あなたの依存をお試しになるための試練を体験されたことがありましたか？その時、更に神に依存する様に招いておられると考えることが出来たでしょうか？

#### 神からアサへの警告：歴代誌第二 15：1－7

アサの治世の 15 年目、アザリアという名の預言者が特別なメッセージを届けにやって来た。その内容は、警告の様な響きであった。もし、アサが完全な依存をもって主を求め続けるなら、大きな報酬があると神は言われた。

彼は出て行ってアサを迎え、これに言った、「アサおよびユダとベニヤミンの人々よ、わたしに聞きなさい。あなたがたが主と共にいる間は、主もあなたがたと共におられます。あなたがたが、もし彼を求めるならば、彼に会うでしょう。しかし、彼を捨てるならば、彼もあなたがたを捨てられるでしょう。そもそも、イスラエルには長い間、まことの神がなく、教をなす祭司もなく、律法もなかった。しかし、悩みの時、彼らがイスラエルの神、主に立ち返り、彼を求めたので彼に会った。そのころは、出る者にも入る者にも、平安がなく、大いなる騒乱が国々のすべての住民を悩ました。国は国に、町は町に撃ち砕かれた。神がもろもろの悩みをもって彼らを苦しめられたからです。しかしあなたがたは勇気を出しなさい。手を弱くしてはならない。あなたがたのわざには報いがあるからです」。(第二歴代誌 15：2－7)

それほど信仰深い王に対して、そのようなメッセージを届けられたのはなぜでしょうか？ユダ王国に霊的改革をもたらす試みの中で勇気を失っていたのでしょうか？努力の有効性

に疑念を抱いていたのでしょうか？アサの心の中に潜在的に信仰と献身を損なう可能性のある、何かを神が見られた可能性がある。原則を思い出しましょう：**隠れた事柄がつまづきとなる**。この様に、神はアザレアをアサに送り言われた：強くありなさい、勇気を失ってはならない！（ヘブライ語訳：両手を下ろしてはならない。）

注意：神は新約聖書の中で言われた：**わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない**」（ヘブル人への手紙13：5）。それでは、なぜアサとその民に、神に背を向けるなら彼らを「見捨てられる」と言われたのでしょうか（歴代誌第二15：2）？神は、アサの王権とイスラエルの国家としての祝福と恩恵と保護の撤回の可能性についてアサに告げていた。サウル王の時と同様に、王の油の注ぎは、不信仰によって撤回されることがある。イスラエル国家の上の祝福もまた、契約に対する彼らの不誠実によって撤回される（申命記28章）。しかし、神との個人的関係という観点から、神は決して私たちから離れ去ったり、見捨てたりされることはない。新約聖書は言っている：神との関係は決してゆるぐことはないが、神との交わり（神との関係から注がれる祝福の体験）は時とともに変わり得る。

アザリアのアサへのメッセージの中には、聖句の相互の原則の響きがある：もし、私たちが神に近づくなら、神も近づいて下さる（参照：ヤコブの手紙4：8、ザカリヤ1：3、マラキ書3：7、歴代誌第二15：2）。A. W. トーザーは次の様に言っている：「神は、望まれるまで待たれる。」まさにその通りである。神は私たちの心が神に向くかどうかを待ち望んでおられる。自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる（歴代誌第二16：9）。一方、私たちの心が神を見捨てるとき、神は御顔を隠される。あなたは現在神を求めておられるでしょうか？神は、あなたに現れて下さっているのでしょうか？

### メッセージに対するアサの応答：15：8－19

アサ王は、主からのメッセージを聞いて勇気を得（15：8）、偶像礼拝の祭壇を撤去し、神殿の主の祭壇を修復した。また祖母を女王としての地位から外した。アサは、公の場で祖母のお気に入りの偶像を破壊し、燃やし、その灰をキドロ川に処分した！それらの改革を記念して、国民会議を開き主との契約への忠誠を更新するよう求めた。

彼らはアサの治世の十五年の三月にエルサレムに集まり、  
（歴代誌第二15：10）

主に大きな犠牲を払った後、全国民が心から神を求める厳粛な宣誓をたてた。

彼らは大声をあげて叫び、ラッパを吹き、角笛を鳴らして、主に誓いを立てた。ユダは皆その誓いを喜んだ。彼らは心をつくして誓いを立て、精神をつくして主を求めたので、主は彼らに会い、四方で彼らに安息を賜わった。

（歴代誌第二15：14，15）

最後の行いは、アサ王とユダ王国が主を心から求めたことによって授けられた神の恩恵について説明している：

そしてアサの治世の三十五年までは再び戦争がなかった。  
（歴代誌第二15：19）

生涯で最良の時期というのは、必ず神と共に歩んでいた時に限る。その時期には素晴らしい体験があったはずであるがまた、必ず苦しみや試練もあったはずである。それでも、その時期は祝福された時期であった。神のご臨在と恩恵に満ちていたからである。「祝福された年月」の体験は、私たちの主への姿勢に依存する。忘れないでください、アサとその民

に起こった全ては、『心を尽くして主を求めたからである』  
(歴代誌第二15:15)。

#### アサの降下：歴代誌第二16:1-14

アサ王の治世から最初の35年間と最後の6年間を調和させることは困難である。35年間、アサは信仰を保ち主に依存する者としての模範であった(「戦いの中で助け人となって下さる方は、あなた以外にいない…」)。ところが、最後の6年間においては、戦いや挑戦を克服するためにアサが依存したのは、神以外のあらゆる人とあらゆる物であった。

#### ーシリア人の保護に信頼した：歴代誌第二16:1-4

ユダ王国は、バーシャとイスラエル王国の軍隊に脅かされた。彼らがエルサレムの5マイル近辺まで接近した時、以前のように神により頼むのではなく、シリア人に頼り主の宮殿と自分の宮殿から大量の金銀を送った。バーシャとの条約を破りアサ側に着かせるために支払った賄賂である。

#### ーバアシャの出来損ないの武器に依存した：16:5, 6

シリア人がアサを援助していることを知ったイスラエルの王バアシャと北の王国は、多くの防衛兵器を残して撤退した。アサは、今では敗北した北の侵略者によって使用されていた石や木材を集め、自身の防御を組み立てた！

#### ー自分の力と怒りに依存した：歴代誌第二16:7-10

預言者ハナニは、アサ王が主により頼むことを怠り、シリアの王に依存したことについて叱責するためにやって来たがアサは怒り、預言者と圧力をかけた自分の民(おそらく預言者に同意した人たちと考えられる)を獄屋に入れた。以前は、神のみことば

に従順であったアサの心は(参照:15:8-19)、今や、自分の選択に反する神からの御声に聞く心の余地もなかった。

困難な状況下で神の真理を語るには勇気が要する。神は、預言者ハナニを用いて、アサ王を叱責された。唯一神のみ、アサが謙虚に受け止めるか、または怒りを持って反応するかをご存知であった。アサ王の反応がどうであれ、ハナニには信仰をもって神に従順に歩む選択しかなかった。ハナニは、信仰と神への従順さを保つために、アサ王によって牢屋に投げ込まれるという大きな犠牲を払わなければならなかった！困難な状況の中で真実を語る時、大きな犠牲を払わなければならない。しかし、神の子たちが神の真実を忠実に表わす時、その心をお喜びになり祝われる。神は、困難な状況の中であなたに真理を語るよう招いておられるでしょうか？

#### ー医者により頼んだ：歴代誌第二16:11-13

アサの人生の終わり頃、非常に重度の足の病気を負った。その時でさえ、アサは謙虚に主に向き返し、神の赦しと助けを求めることをせず、医者にのみより頼んだ。(医者に頼ることが正しくないというわけではない。しかし、神への依存と医者への依存を兼ね備えなかった。)この病いは、もう一度神と共に歩むための神の招待であったかもしれない。

#### ー自分の遺産に信頼した：歴代誌第二16:14

アサの死後、遺体は生前エルサレムに自分で用意し、特別な香料で満たした贅沢な墓に葬られた。また、埋葬の際には盛大な炎の儀式が行われた。ユダの「偉大な王」としての遺産を保護し、保存するために、事前に周到の準備していたようであった。

悲しいかな、以前、全面的に神に依存出来ていた頃のアサの記録からではなく、神への信頼を怠った記録から、非常に有名な聖句が生まれた：

主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。今度の事では、あなたは愚かな事をした。ゆえにこの後、あなたに戦争が臨むであろう」。(歴代誌第二16：9)

### 概要：隠れた事柄がつまづきとなる

アサの物語は、多くの聖書に登場する人々の中で繰り返されるパターンを明らかにしている。まず強い信仰から始まりそれが何年か続くが、最終的に何らかの信仰の衰退や破裂が生じる。ソロモンの信仰は歳を重ねるにつれて衰退し、女たちがソロモンの心をつかみ、神から遠ざかることを許した。ダビデも歳を重ね、誇りという罪から軍人の数を数えた。モーセは歳を取り、体力が弱り、イスラエルの民に対する忍耐を失った。アサは歳を重ね、神に信頼を置くことを止めた。それぞれが直面しなければならない幾つかの重要な問題を提起している：

1. 「死角」や「秘密」や「隠れた事柄」がつまづきとなる。いつか信仰を脅かす可能性があり、神の仕事を破壊する可能性があるということを認識出来ていない問題が潜在する。今、それらを識別することが出来るでしょうか？(下記のジョハリの表を参照)

2. 自分の目に見えていない事柄を主に明らかにしていただきましょう。他者によって、それらの意識が誘発され、またそれらを素直に受け入れる誠意を持つ。(第一ヨハネ1：5-10)

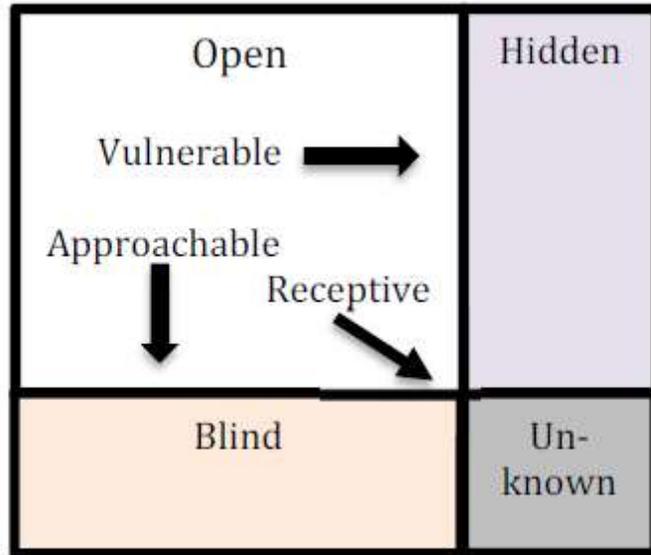
3. 何十年間もの神への従順さを保った後でさえ、どんな要因によって信仰を弱体化させる可能性があるでしょうか？無気力でしょうか？誇りでしょうか？勝利を数えることでしょうか？遺産を守ることでしょうか？長寿へのささやかな願望でしょうか？サタンからの誘惑でしょうか？分裂した心でしょうか？

4. 信仰の道から遠ざかりにくくするために、どのような警備で周囲をかためることができるでしょうか？

### The Johari Window Model of Self-awareness

Open: Known to self and to others	Hidden: Known to self but not to others
Blind: Known to others but not to self	Unknown: Not known to self or others

私たちの秘密について、より脆弱になればなるほど、見えていなかったところに接近しやすくなり、また、未知の領域に神の御霊の光を受け入れやすくなり、人生の開放領域が広がる。



### 討論のための質問：

今回の説教は「隠れた事柄がつまづきとなる」という主題に基づいている。

1. アサ王の物語から最も心に残った事柄は何ですか？（神への情熱と強い影響力を受けた初期の物語でしょうか？微妙な衰退と問題を自力で管理した時期でしょうか？預言者ハナニに対する巨大な怒りと復讐の反応でしょうか？最後に悔い改めを拒んだことでしょうか？他にありますか？）

2. 列王記第二 16：8，9で、預言者ハナニは、アサ王が心から完全に主に信頼を寄せた時、主は力強く援助して下さったことを思い出させた。不可能に思えた状況の中で、神が助けて下さったことがありますか？いくつか書き記し、励まされ、神の力強い支援に感謝を捧げましょう。

3. 上記のジョハリの表に見られる様に、神や周囲の人々の語りに耳を傾ければ傾ける程、「神の光の内に歩む」ことになる（ヨハネ第1：5-10）。あなたの生活の中で真実を語ってもらうために誰を招いておられますか？過去に、誰かが真実を語ろうとしてくれた際、どの様に反応されたでしょうか？神は忠実であり、愛であるので、「激励してくれる人々を」備えて下さる。神が今あなたに明らかにされようとしておられる事柄は何でしょうか？心を静め、隠された事柄に神の光を照らしていただく様求めましょう。

4. 預言者ハナニが神の真実を王に語った勇気ある行動から何を学ばれましたか？その行動から、ハナニが直面しなければならなかった結果についてはいかがでしょうか？バプテスマのヨハネの似たような物語についてはいかがでしょうか（マタイの福音書 14：3-5）。

